「日々の理科」（第 3003 号）　2022,10,27

「秋の東北鉄道旅行（８）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

新青森駅から弘前駅（ひろさきえき）までは、普通列車で約１時間だった。私は運転席の後ろに立ちっ放しだったが、流れる風景が楽しく、全く疲れを感じなかった。

ほとんど無人駅ばかり通ってきたので、弘前駅は「大都会の駅」に見える。弘前市は、青森県下では青森市、八戸市に次ぐ、人口第三位の都市で、唯一の国立大学の所在地でもある。青森市、八戸市、更に秋田市には新幹線の駅があるが、弘前市だけは在来線しか停まらない。その分在来線ホームが多く、ある意味活気が感じられた。

駅名板は JR 東日本共通のようで、山手線のものと同じデザインだ。弘前の一つ手前は「撫牛子（ないじょうし）」で、北海道の「止別（やむべつ）」、羽越本線の「象潟（きさかた）」などと並んで、「鉄道難読駅の一つに数えられる。「弘前」もよく「ひろまえ」と誤読される「難読地名」の一つと言えるだろう。

弘前駅のホームに、見慣れない気動車が入ってきた。「リゾートしらかみ号」である。海岸風景のすばらしい「五能線」を走る観光列車なのだが、五能線の災害被害の為、一部区間の営業となっている。

車内を覗くと、実に豪華な客室だ。今回は時間がなく、乗ることはできなかったが、次回は乗ってみたい。

弘前駅前は新幹線の駅の駅前のように広々として、ホテルや商業施設のビルが立ち並んでいた。さて、乗り換え時間はあまりないが、どんな観光をしようか？